

15:1 夜が明けるとすぐに、祭司長たちは、長老たちや律法学者たちと最高法院全体で協議を行ってから、イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。

15:2 ピラトはイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王なのか。」イエスは答えられた。「あなたがそう言っています。」

15:3 そこで祭司長たちは、多くのことでイエスを訴えた。

15:4 ピラトは再びイエスに尋ねた。「何も答えられないのか。見なさい。彼らはあんなにまであなたを訴えているが。」

15:5 しかし、イエスはもはや何も答えようとされなかった。それにはピラトも驚いた。

15:6 ところで、ピラトは祭りのたびに、人々の願う囚人一人を釈放していた。

15:7 そこに、バラバという者がいて、暴動で人殺しをした暴徒たちとともに牢につながれていた。

15:8 群衆が上って来て、いつものようにしてもらうことを、ピラトに要求し始めた。

15:9 そこでピラトは彼らに答えた。「おまえたちはユダヤ人の王を釈放してほしいのか。」

15:10 ピラトは、祭司長たちがねたみからイエスを引き渡したことを、知っていたのである。

15:11 しかし、祭司長たちは、むしろ、バラバを釈放してもらうように群衆を扇動した。

15:12 そこで、ピラトは再び答えた。「では、おまえたちがユダヤ人の王と呼ぶあの人を、私にどうしてほしいのか。」

15:13 すると彼らはまたも叫んだ。「十字架

につける。」

15:14 ピラトは彼らに言った。「あの人があんな悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につける。」

15:15 それで、ピラトは群衆を満足させようと思い、バラバを釈放し、イエスはむちで打ってから、十字架につけるために引き渡した。

マルコ福音書のテーマはいうなれば、”イエスがいかに力ある御父の働き手であるか”というものです。(その最たるものは十字架によるあがないです。) 人間的に見れば、一般的に力ある者は雄弁で、自分の正しさを効果的に主張し、相手の心を動かして、自分の目的を成し遂げるといえるものでしょう。しかしイエス様は違いました。「それでも、イエスは何もお答えにならなかった」のです。

イエス様は全てを父なる神にお任せするという、最も効果的で力ある道を知っておられたからです。そして御自分の主張は控えて、父なる神のみこころのみを求めるといふ、最も雄弁な道を知っておられたのです。

私たちは自分の不利に際して、あせってあれやこれやと言いたくなるものです。または立場が悪くならないようにと、時には相手をやり込めたいくなるものです。しかしそれは全く効果的ではなく、雄弁でもなく、非効率的であることを知りましょう。

全能の神のみこころに委ねること、これが本当に力ある者なのです。また、時には何も申し開きの機会が与えられないまま、悔しい思いをすることがあるかも知れません。そのときも御父に委ねることのすばらしさを感謝しましょう。イエス様と同じ道を歩み、栄光を見ることができるようです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

